

先場所は3勝5敗から3連勝して辛くも勝ち越した関脇鹿富士。関脇の地位を守り、悲願の大関に向けて4勝7敗と負け越して平幕に落ちた綱乃花との対戦。

「しっかりせい！」と磯ノ海親方から激を飛ばされ気合いを入れ直して臨んだ三日目は春ノ翔、若ノ嶋と2日続けて殊勲の星をあげた四季嶋相手に本来は相撲を見せると3連敗は免れた。



大神楽●(寄り切り)○鉄 甲

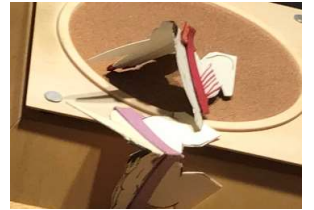


大神楽○(寄り切り)●四季嶋

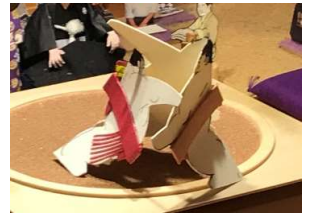


綱乃花○(寄り切り)●大神楽

優勝すれば横綱への道が開かれるはずが、3横綱に全敗して8勝3敗に終わった大神楽。今場所もその強さを見せられるかと期待されたが、初日に鉄甲に立合いの奇襲で押し倒された。



千代鈴○(寄り切り)●朱雀湖



千代鈴○(寄り切り)●鉄 甲

友砂親方が期待を込めて体重を15kgも増やしており、先場所と違ってどんな相撲をみせるか注目されたが、鹿富士に押し倒された左を差す体勢になったがすぐに引き落とされ敗れた。

初日に勝って気を良くして臨んだ鹿富士の二日目だったが、朱雀湖に押し倒されると、三日目は1勝4敗と苦手の出羽翼にも押し倒され、意気消沈の鹿賀乃戸親方だった。

一方、注目の綱乃花は二日目は大関大神楽、三日目は烏帽子岳と磯ノ海勢を安定した寄りを見せ白星先行。勝間田勢を苦しめず独走しそうな横綱千代鈴を止められる旨はしかなかったのかもしれない。



若 柱○(寄り切り)●玄武岩



西神門○(寄り切り)●若 巨



鹿富士●(押し倒し)○出羽翼



綱乃花○(寄り倒し)●烏帽子

「重くなったのが災いしたんじゃないのかな？」との鹿賀乃戸親方の投げかけに「しようがない！」とこういう相撲も計算に入れていたとの友砂親方の反応。



綱乃花●(引き落し)○鹿富士

先場所終盤に思うように星を伸ばせなかった入幕が叶わなかった鹿賀乃戸部屋の黒雲海と若雲山。今場所は東西二枚目に位置し意気込みも新たに、そして鹿麒麟の好スタに刺激にして昇進に向けて白星を積み重ねていきたい。

三日月を終わって、三役以上の3連勝は横綱千代鈴ひとり。平幕では、出羽翼、鬼ヶ嶽、西神門、烏海波、若柱の5人が3連勝を飾った。



若雲山○(寄り切り)●日向藤



黒雲海●(引き落し)○麒麟王

麒麟王は十両に陥落したがひと場所に戻りそうな勢い。新十両の時はその地位を守ることは出来なかったが、今場所は3番とも左を差してから寄る安定した相撲で大勝している。これは大勝を狙っていた優勝と入幕を揃ってほしいところだ。

四日目を降、横綱大関関脇が巻き返すことができるか、それとも勝間田旋風が収まることを知らず吹き荒れるのか、注目したいところだ。(錦風)

桃山部屋から久々の新入幕の桃乃洲、初日は敗れはしたものの、二日目、三日目とバランスのいい相撲内容で白星を挙げて、ほっと一息。幕内定着を目指したいところだ。



桃乃洲○(外掛け)●雪若丸

### 十両は早くも混戦模様

十両も三日目まで終えて3連勝としたのは麒麟王と鹿麒麟。早くも勝ちつばなしはこの二人だけとなり、今場所も混戦の展開になりそうな予感だ。



鹿麒麟○(下手投げ)●西 安



西勢里●(上手投げ)○黒雲海

「ちよっと軽いんだけどね」と親方があるように関取の平均体重を大きく下回り心配されたが、逆にその軽さが吉と出たよう動きも軽快で三日目椿富士に敗れたもののみならずのスタートとなった。

久々に十両の土俵に戻ってきた磯日ノ丸は2勝1敗とこちらも上々の出だしで十両定着を狙う。

一方、小兵コンビの磯若と洪野は1勝2敗とやや力不足の感じが見受けられるものの3連敗は免れた。だが今後も苦戦を強いられそうな感じが。

実は初日の前にチョットした珍事が…。磯ノ海親方が磯若と茅ヶ崎の見分けがつかずに間違っって茅ヶ崎に本廻しを付けていたというもの。勝間田親方が気が付いて急遽付け直して休場を免れたのだが、磯ノ海親方曰く「似ていたから分らなかったよ」とのこと。大神楽以外の弟子に興味がない磯ノ海親方らしいとは親方衆の声。

(勝間田)

